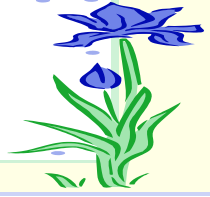




三二展示

平成19年4月9日(月)～5月10日(木)

下田歌子関係資料展



下田歌子は安政元年8月8日、美濃国恵那郡岩村（現岐阜県恵那市岩村町）の岩村藩士平尾録蔵と妻ふさの長女として生まれた。幼名をせき（鉦）と呼ぶ。明治3年父録蔵は神祇官として東京に出るが、歌子は翌明治4年父の後を追って上京し、祖父東条琴台より漢学やその他の学問について教えを受けた。また、和歌を八田知紀・加藤千浪に、絵を河野栄斎について学んだ。明治5年、高崎正風らの推挙によって宮内省に勤め、皇后（後の昭憲皇太后）にお仕えした。この時皇后から和歌の才能を褒められ「歌子」の名を頂いた。

自筆和歌 ～春を詠ったもの～

春草

黒土をもたくる草に新らしきちからも見えて春はうれしも No. 796 (短冊)

野鶯

若草もまたもえ出ぬ春の野になく鶯のこゑの長閑き No. 2380 (短冊)

自助之精神

こゝろもて心のたまをミかゝすは天津ひかりもたすけさらまし No. 2315 (短冊)

遠山霞

春かすミ霞へたてゝ常よりもなほおくふかしひらの遠やま No. 2409 (短冊)

柳風

長閑にもはる日照そふやま辺よりふきくる風になひく青柳 No. 2369 (短冊)

暖けき春の女神に恵まれてあら野の草も花に咲らん No. 21 (書幅)

龍岬 画

燭影移水

水底の影そみたるゝともし火のうつろふきしを舟やすくらん No. 2253 (短冊)

春路

桜はなさきミたれつる玉ほこのミちのゆくてに春風そふく No. 2366 (短冊)

堅忍持久のこころを

さざれ石のむかしをたれがしら波の打てどゆるがぬきしの岩かね No. 4669 (扇面)

明治四年故郷をたちいてける折によめる

綾錦きてかへらすは三国山 またふたゝひは越えしとそおもふ No. 4655 (色紙・大)

下田歌子遺品



宮中拝領品

小菊文浮彫硯 蓋付 明治天皇御下賜品 No.2911

水晶の珠 置物 青銅台付 下田歌子座右の品 No.2924

愛用の品

ほおづき文茶碗 下田先生御使いの品 No.4696

腕時計 MOERIS 製 下田先生御使いの品 No.3666

実践女子学園 草創期

帝国婦人協会設立趣意書 No.4800

明治 26 年 9 月、下田歌子は皇女教育にあたる者としてヨーロッパ各国における女子教育の状況を視察し、28 年 8 月に帰国し、報告書「泰西婦女風俗」を発表。ついで「欧米女子教育の大要」を著し婦女子の知育・徳育・体育の重要性を論じている。これを契機に、一般婦女子の地位向上と生活改善を図ることを目的に、明治 31 年 11 月帝国婦人協会が設立された。この組織の教育部門に実践女学校、同付属慈善女学校、女子工芸学校などが揚げられており明治 32 年 4 月に麹町区元園町に開校した。その後明治 36 年 5 月に現在の渋谷区常盤松の校地に移転した。

写真

「渋谷駅ホームと忠犬ハチ公の銅像」 昭和十年卒業アルバムより

「道玄坂から東急東横店を望む」 現在の 109 方面からか？

「高等女学校の校舎」 昭和八年卒業アルバムより

「高等女学校の校舎 正門」 昭和七年卒業アルバムより

「高等女学校の校舎 西門」 昭和七年卒業アルバムより

「実践女学校 大正十三年三月」

「高等女学校の校舎」 大正十二年卒業アルバムより

「大正期の校舎」 大正十二年卒業アルバムより

